



2018年2月6日

本日の基準価額下落と市場について

本日さわかみファンドの基準価額が4.2%下落しました（NIKKEI225：▲4.7%、TOPIX:▲4.4%）。ご存じのように先週末の米国株式市場下落による影響がその背景にあります。これは一時的な調整だと私たちは考えています。というのも、米国株式市場が下落した要因は、同国の雇用統計で賃金上昇率が予想より良かったことから米国金利が上昇したためです。為替もムニューシン財務長官のダボス会議での発言でドル安に振れたこともあり、金利が上昇している中でドル安が進行しました。しかし実際には日銀もECBもまだまだ早期の正常化を目指していないようですし、米国もドル安誘導を否定していますので、いずれ落ち着くでしょう。また世界的に景気は堅調、日本企業の業績を見てもそれが表れていると思いますから、市場が安定すれば再び株式市場は上昇する可能性が高いと考えます。したがって割安とまではいかないまでも、株価が過剰に下落したこの機会に17億円の買いを実行いたしました。今後も調整が続き割安な水準になった場合には積極的に買いを進めてまいります。

一方で、私たちは今後について単純に楽観しているわけではなく、いくつかの懸念材料があると考えております。まず、米国では失業率が低下し賃金が上昇しているにもかかわらず経済が以前ほどの勢いに戻らない状況が続くでしょう。インフレ率が中央銀行の目標に届かない中で金融政策は正常化に着実に向かう可能性もあるからです。トランプ減税の影響でこれから米国債は増発されると考えられますから、需給関係は中央銀行が国債の保有を減らす方向である一方、新規発行は増加してしまうという2点で悪化すると思われます。その結果、債券価格は下落（金利上昇）となり、経済に悪影響を与えます。また、欧州はドイツやイタリアが政治的に不安定で安心できない状況のため、政治からの影響も考えられます。

現在の市場には価格形成能力と流動性という点でも懸念があります。低金利が長く続いたことで、より高い利回りの資産に対する投資家の需要が強くなり過ぎてしまいました。その結果、市場の価格形成機能は低下しリスクに見合わない価格でも取引がなされています。金融危機以降の規制により、投資銀行の自己取引が激減し市場に流動性をもたらす担い手がなくなり、代わって足の速いファンドがメインプレイヤーとなってしまいました。彼らはすぐさま市場から姿を消すため、売りを吸収できる主体がないという状況が生まれ、市場は機能不全に陥ってしまいかねません。ETFやREITのように、対象資産自体に流動性が低いものが組み入れられている場合はより大きなダメージが出るでしょう。

このようにマネーの逆回転が起これば、相当に厳しい状況になると思います。しかしその時こそ長期投資家の出番。バーゲンハンティングをすることで市場、そして企業を支えられる絶好の機会です。これまで蓄えてきた力を一気に投入するチャンスです。焦らず、落ち着いてその時を静かに待ちましょう！

ファンド名	基準価額	前日比	前日比騰落率
さわかみファンド	26,338	-1,152	-4.2%

さわかみ投信株式会社
取締役最高投資責任者 草刈 貴弘

さわかみファンドについて

- 経済の大きなうねりをとらえて先取り投資することを運用の基本とし、その時点で最も割安と考えられる投資対象に資産を集中配分します。
- 将来価値から考えて、市場価値が割安と考えられる銘柄に選別投資し、割安が解消するまで持続保有する「パイ・アンド・ホールド型」の長期投資を基本とします。
- 「割安であること」の判断の精度を維持・向上するために、経済全般および個別銘柄について徹底したリサーチ活動を継続します。

当ファンドは、運用の成果について目標とするベンチマークは設定しません。上記のスタイルを一貫し、これを変えることは致しません。当ファンドの運用にあたっては、短期的な成績向上を狙うような無理な投資はしませんが、必要と考えるリスクは敢然と取ります。また、長期的な運用成果を向上させるため、株主総会での議決権行使なども積極的に行ってまいります。

当ファンドの運用方針は長期運用を前提としているため、ファンド資産の激しい変動は運用効率を著しく阻害しますので、短期保有目的でのご購入はご遠慮ください。

お申込みメモ

リスク	当ファンドは、主に国内外の株式や債券など値動きのある有価証券等に投資します。そのため、組み入れた有価証券等の価格、外国為替相場等の変動により、基準価額は変動等の影響を受けます。これらにより生じた利益および損失は、全て当ファンドの受益者に帰属することとなります。また、元本および利息の保証はなく、預金保険の対象ではありません。したがって、受益者の投資された元本は、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。その損失に耐えうる以上に当ファンドに対して投資することはご遠慮ください。投資信託は預貯金とは異なります。		
購入時手数料	ありません。	信託報酬	当ファンドの純資産総額に対して、1.08%（税込み・年率）です。
信託財産留保額	ありません。		
その他費用・手数料	当ファンドに組入れる有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に対する消費税等相当額、先物取引・オプション取引等に要する費用、一部解約金の支払資金の手当を目的とした借入金の利息は、信託財産中から支弁します。※これらの費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。		
留意事項	投資にあたっては、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をよくご覧いただき、ご自身でご判断ください。「投資信託説明書(交付目論見書)」のご請求は、さわかみ投信株式会社(TEL:03-6706-4789)までお申込みください。		

【ファンドの委託会社その他の関係法人の概要】

- 委託会社:さわかみ投信株式会社
- 受託会社:野村信託銀行株式会社
- 販売会社:さわかみ投信株式会社



さわかみ投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第328号 一般社団法人 投資信託協会 会員 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員
〒102-0082 東京都千代田区一番町29-2
TEL:03-6706-4789 FAX:03-5226-7981 <https://www.sawakami.co.jp/>